甲子園栄光の初勝利

上田西躍動 草海 快刀乱麻の投球

千西一遇

第35号

2015年
9月4日 発行

上田西高校
新聞委員会
代表 羽毛田果歩
副代表 小澤祐哉
副代表 小林ガブリエル

平成27年度8月6日、第97回全国高校野球選手権大会第1日第3試合が阪神甲子園球場にて行われた。上田西の対戦相手は宮崎県代表宮崎日大高校。二年前の初戦敗退の雪辱を果たし、念願の甲子園初勝利を挙げられるかに注目が集まった。

結果は、見事に上田西が勝利し、うれしい甲子園初勝利となった。

試合はいきなり動いた。一回の表上田西は、好調の1番河野2番齋藤がチャンスを作り、宮崎日大の先発杉尾の立ち上がりを攻める。安打と四球に犠打を絡め一死満塁とすると五番松本が左前適時打を放ち、早々に二点を先制。杉尾はわずか1/3回でマウンドを二番手の黒木に譲った。

上田西の追加点は六回表。安打と失策、犠打などで一死二、三塁のチャンスをつくると二番、齋藤の一ゴロで貴重な追加点を挙げた。

二年生エース草海は140キロ台のストレートとキレのあるスライダーを巧みに織り交ぜる投球で宮崎日大打線につけいる隙を与えない。終わってみれば6安打99球で完封勝利。打線は先発全員の12安打を放ち宮崎日大を圧倒した。なお長野県勢の甲子園での完封勝利は21年ぶり無四死球は96年ぶりである。

試合後原監督は「選手の状態はベストであった。九州の高校との戦いだったのであまりよくわからない状態で先入観がなく挑めたので良かったと思う」大藪主将は「いい感じで試合に入れた。気持ちも体もしっかり入れたので良かった」とそれぞれコメントした。甲子園2度目の出場で見事に初勝利を挙げ、上田西高校の歴史に新たな1ページが刻まれることとなった。

草海　光るフィールディング

168センチと小柄な草海だが、もともとは野手として活躍していた。昨秋、監督の勧めで投手に転向。投球センスもさることながら、野手での経験を活かした巧みなフィールディングを見せ、甲子園球場を大いに沸かせた。

一回戦の宮崎日大戦では、8回に一死一、二塁のピンチを招くも、投前への小飛球となった送りバントを冷静に処理。ショートバウンドで捕球すると、そのまま三塁に送球し見事に封殺。ピンチを迎えても再三の好フィールディングで自身を助け、強打の宮崎日大打線を相手に完封勝利を挙げた。

なお、宮崎日大戦での完封勝利は大会第一号であった。

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	計
上田西	2	0	0	0	0	1	0	0	0	3
宮崎日大	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

二回戦は作新学院

2回戦は、8月12日第3試合に行われた。相手は、5年連続11回目の出場の甲子園常連校作新学院。1回戦無四球完封勝利を挙げた草海に注目が集まった。

試合が動いたのは2回。作新学院は、二死から連打で先制点を挙げる。甲子園初失点を喫した草海であったが、その後は粘り強いピッチングで守備からリズムを作る。すると4回裏、上田西は一死二、三塁からこの日先発出場の西澤が犠飛、続く野口が右前適時打を放ち同点に追いついた。しかし、均衡を破ったのは地力に勝る作新学院だった。

5回の表に、三連打で2点を加え4対2とすると、7回の表には、ギアを一つ上げるかのような怒涛の攻撃で、一挙に5点を挙げた。この回草海は無念の降板。だが、上田西も黙ってはいられない。8回裏、四球と失策などで無死一，三塁とチャンスを作ると三番三井四番大藪が連続適時打を放つ。9回の裏にも一死二、三塁と作新学院有田を攻めると齋藤の遊ゴロの間にまず一点を挙げる。続く三井が適時二塁内野安打を放ち2点を追加した。しかし反撃もここまで。6対10で惜しくも二回戦敗退となった。

一年生コンビも躍動

上田西の一年生コンビが甲子園で躍動した。宮崎日大戦9回二死から代打で登場した和久は見事に安打を放つ。作新学院戦でも代打で死球を受け、貫録を見せつけた。投手の工藤は作新学院戦の7回に登板。失点こそしたものの、見事に後続を打ち取る活躍を見せた。

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	計
作新学院	0	1	1	0	2	0	5	0	1	10
上田西	0	0	0	2	0	0	0	2	2	6

ベンチ入りメンバー

①草海　光貴（更北）
②野口　雅史（上田第四）
③三井　崇平（上田第四）
④齋藤　尊志（上田第六）
⑤大藪　将也（丸子）
⑥河野　誠也（岡谷東部）
⑦小林　亮太（臼田）
⑧松本　太亮（大町第一）
⑨関口　大輔（篠ノ井東）
⑩工藤　陽平（泰阜）
⑪柳沢　奨太（芦原）
⑫大山　潤（丸子北）
⑬野村　遼介（中野平）
⑭松田　祐樹（中野平）
⑮今井　大晃（長峰）
⑯西澤　大介（高山）
⑰和久　滉矢（川上）
⑱寺島　玲央（柳町）

記録員　倉田尚紀（長野原西）
部長　白井道彦
監督　原　公彦

編集後記

はじめて、本格的な新聞を書いたのでかなり苦労した面がある。レポートなどを描く感覚でやっていたがそんなに甘いものではなかったので、驚いた。またそんなに日にちを要さないと思っていたが、予想以上に時間を要した。いつも自分達は新聞作りをやっていなかった分委員長の苦労を思い知った（小澤祐哉）新聞を書いたのは初めてだったので、簡単に仕上がると思っていましたが、実際は何回も書き直し、かなり苦労しました。それなりにいい新聞ができて良かったと思います。（小林ガブリエル）